

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **81**
April
2010



**2009年度
国際医療福祉大学・大学院
学位記授与式**

2 2009年度 国際医療福祉大学 学部・大学院 学位記授与式

卒業生・修了生概要／北島政樹学長式辞／小田原保健医療学部から初の卒業生！／クローズアップ卒業生・大学院修了生



8 小田原キャンパス 第14回
3年次生対象「就職対策講座」始まる／
キャンパス間交流

9 福岡天神キャンパス 第4回
臨地実習に出た学生たち／教育力のアップを目指して

10 大川キャンパス第19回
学位記授与式／環境(自立)介護家具シンポジウムin大川

11 Topics & Columns
ニッセイ同和損害保険株式会社岡崎名誉会長と奨学生との懇親会を開催／須藤先生 最高裁判事就任／マロニエ苑20周年記念式典／看護学科 卒前プロジェクト研修／福祉用具発明&工夫コンテスト「優秀賞」受賞／言語聴覚学科「韓国ナザレ大学との学生交流会」／視機能療法学科「実習指導者会議」／2009年度医療管理学科 認定資格合格者表彰式薬学科 薬学共用試験OSCE／第3回森田杯・英文毎日杯ペアで紹介する日本文化プレゼンコンテスト出場／第4回ESSC入賞／乃木坂スクール 2010年度前期開講のご案内／乃木坂スクールのゲスト講師として安倍晋三元首相来訪／2010年度入試状況

13 私の主張 第15回(福岡リハビリテーション学部 言語聴覚学科 准教授為数哲司)
「晩節を汚さぬために 一昔のことは忘れない」

16 施設インフォメーション
国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学塩谷病院／国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学熱海病院／山王病院／化学療法研究所附属病院／高木病院／福岡山王病院

19 学生投稿ページ02
兄弟姉妹 揃って国福大生

20 医療福祉チャンネル774
〈IUHW Hot News〉医療福祉学科 社会福祉士国家試験特別対策講義・壮行会

2009年度 卒業生・修了生概要

2009年度 卒業生	869名
看護学科	120名
理学療法学科	97名
作業療法学科	93名
言語聴覚学科	88名
視機能療法学科	49名
放射線・情報科学科	120名
医療経営管理学科	114名
医療福祉学科	142名
薬学科	46名
2009年度 大学院修了生	229名
修士課程 保健医療学専攻	211名
修士課程 医療福祉経営専攻	12名
修士課程 臨床心理学専攻	57名
修士課程 医療・生命薬科学専攻	23名
博士課程 保健医療学専攻	18名

■修了する留学生
修士課程(保健医療学専攻)
・劉暢(リュウヨウ) 中国
・牛志馨(ニウシキョウ) 中国
・何斌(カヒン) 中国
・韓芳芳(カンホウホウ) 中国
・徐輝(ジョウキ) 中国
・張永勝(チョウエイショウ) 中国
・馬國君(マクワン) 中国
・馬麗雲(マリウン) 中国
・楊卓劍(ヨウタクケン) 中国
・李欣(リキン) 中国
・李晶洋(リジョウヘイ) 中国
・黃惠珍(ワウエイジン) 韓国
・楊靜(ヨウジヤウ) 中国

■博士課程保健医療学専攻修了者
一ノ宮惜史(イチノミヤヨシフミ) 理学療法学分野
・論文「脳障害モデルマウスにおける運動機能検査法の検討」
盆子原 三(イダノハラミツ) 福祉援助学分野
・論文「観察による歩行分析における熱度について」
内田 学(ウチダガク) 理学療法学分野
・論文「体位交換時の姿勢保持に用いる杖の使用が換気による影響」
・論文「呼吸運動の特性」
奥(ミ) 呼吸療法学分野
・論文「高齢者体検査による体幹・下肢屈曲姿勢で杖を使用することの立位・歩行に及ぼす影響」
小山内 正博(コヤマチマサヒロ) 理学療法学分野
・論文「COPD患者における呼吸理学療法提案の姿勢と呼吸の

関連に基づいて」
上村 さと美(カミムラサトミ) 理学療法学分野
・論文「起立運動を応用した運動負荷の定量化」
吉川 幸次郎(ヨシガワキョウジロウ) 理学療法学分野
・論文「リフティング動作における深部体幹筋の役割」
小平めぐみ(コヒラメグミ) 医療福祉学専攻
・論文「特別養護老人ホームの介護の質の向上とチームケアに関する研究」おむつ・排泄の自立を中心として」
瀬戸 健馬(セトケンバ) 医療福祉経営学専攻
・論文「医療分野におけるセキュリティを確保した多施設間データ配分方式に関する研究」
高崎 晴子(タカザキハルコ) 看護学専攻
・論文「胃手術を受けた患者の栄養状態推移と術後感染の関連」
戸塚 恵子(トノヅカケイコ) 医療福祉学専攻
・論文「特別養護老人ホームで働く看護婦が施設看護を見出す過程」
仲保 徹(ナカボトトシユキ) 福祉援助学専攻
・論文「呼吸運動の3次元動作分析 姿勢・形態が胸壁形状変化に及ぼす影響」
南雲 浩隆(ナグモヒロタカ) リハビリテーション学専攻
・論文「ALS在宅療養者の依頼要求と自己身体感 性格傾向、不安の関連」
野村 晴美(ノムラハルミ) 医療福祉学専攻
・論文「特別養護老人ホームにおける肺炎とその予防ケアの実態」
東島 弘子(トシノノコ) 医療福祉経営学専攻
・論文「認知症高齢者の福祉用具利用におけるリスクマネジメント」
藤原 義子(フジハラヨシコ) 看護学専攻
・論文「訪問看護における看取りケースにみる状態変化と訪問看護師介入プロセスの検討」

山本 康弘(ヤマモトヤシヒロ) 医療福祉経営学専攻
・論文「天都市部の医療機関が救急患者を受入に至らなかった要因に関する研究」
吉松 重貴(ヨシマツシゲキ) 理学療法学分野
・論文「高齢性肥満期における体格・体組成と栄養状態との関連について」日常生活自立度の低下により長期療養中の高齢患者における簡便な栄養評価の開発を目指して」
(以下は論文博士)
金井 学聡(イナヱガク) 創薬薬理学科
・論文「日本人、中国人及び白人を被験者としたインスリン製剤に対する反応性に関する民族差に関する研究」
上城 憲司(カミキケンジ) 作業療法学分野
・論文「認知症高齢者の家族支援プログラムに関する研究」
関 千江(セキチヨウ) 放射線・情報科学科
・論文「マウスを対象としたPETリガンド定量動態解析に関する研究」
島原 真紀子(シマハラマキコ) 看護学専攻
・論文「救急救命センター看護師の職務満足に関する諸要因の分析」
森川 弘文(モリガワヒロフミ) 医療経営管理学科
・論文「実践に基づく社会福祉法人の福祉経営論」
斎藤 琴子(イサイコトコ) 理学療法学分野
・論文「下肢最大反復運動を用いた最大歩行速度の推定」
西木 雅行(ニシキマサユキ) 放射線・情報科学科
・論文「新しい適用型ノイズ低減フィルタの研究」
細山 洋子(ホシヤマヨウコ) 医療福祉経営学専攻
・論文「介護付き有料老人ホーム入居者における生命予後と入院による退居リスクの測因」早期発見のための判定表 試案の作成」



三月一六日(火)、国際医療福祉大学・那須アスリーナにおいて、国際医療福祉大学 学部・大学院学位記授与式が執り行われた。朝は雨も心配されるほどの曇天だったが、式の前には時折日差しも回復し、式終了後の広場では、例年通り、いくつもの記念撮影の輪ができていた。



卒業生総代の小沢真奈美さん



修士課程総代の中村悦子さん



博士課程総代の戸塚恵子さん

コーラス部による校歌「未来への扉」斉唱のあと、北島政樹学長より卒業生総代の医療経営管理学科・小沢真奈美さんに学部学位記が授与された。続いて、開原成允大学院院長より博士課程総代の戸塚恵子さん、修士課程総代の中村悦子さんに大学院学位記が授与され、さらに各学科学業最優秀者(左表)に学長賞が授与された。

北島学長の式辞(4ページに掲載)に続き、千保一夫大田原市長、福田富一栃木県知事(代読)、学校法人東京医科大学の伊東洋理事長よりご祝辞をいただいた。

卒業生総代の小沢真奈美さんによる卒業生謝辞、大学院修了生代表の吉川幸次郎さんによる修了生謝辞、卒業生代表大河内徹さんによる卒業記念品贈呈が行われ式が終了。会場前で在校生たちの祝福を受けた後、それぞれの学位記伝達式に会場を移し、ご両親や恩師が見守る中、一人ひとりに学位記が手渡された。

(東京事務所 出版広報室)





学長・北島政樹

学長式辞

本日は卒業生の皆様はもとより、本日まで物心両面にわたりご支援されてこられたご両親及びご家族の皆様にとりましてお待ち待った喜ばしい日と思われまふ。本学教職員を代表して心よりお祝い申し上げると共に、今日まで愛情をもって育ててくれたことに敬意を表します。

今年度の卒業・修了者数は、保健医療学部五十七名、医療福祉学部二五六名、薬学部（四年制）四六名の合計八六九名、大学院は、医療福祉学研究所・薬科学研究所修士課程二二一名、医療福祉学研究所博士課程一八名の合計二二九名です。前年度までの学部卒業生は八三六二名、大学院修了生は九八四名を数え、それぞれが医療福祉分野で活躍されています。

「温故知新」という諺がありますが、「昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得ること」という意味です。本学は多くの医療福祉の人材を輩出し、一五年間発展の道をたどってまいりました。今年から一〇年前の一九一〇年明治四三年、理事長の祖父高木吉彦先生が大川市に高木眼科医院を開業されました。一九一〇年は細川学者ロバート・コッホや看護学のナイ

チンゲール、解剖学者ツッカーカンドルが活躍した年代です。その後、父上様の高木維彦先生が一九六二年（昭和三七七）、放射線科と胃腸科を加えて高木外科医院を開院されました。後に、現理事長・高木邦格先生が副理事長として参加され、現在の高木病院として九州でも有数の病院に発展しました。この発展が平成七年、医療福祉専門職の養成とその地位向上を目指した日本で初めての医療福祉の総合大学、国際医療福祉大学の開学に結びつき、本学の光輝ある伝統と歴史が始まりました。

二〇〇二年には医療費抑制のため、診療報酬が二・七%下がりましたが、昨年末、新政権の閣議決定により成長戦略の核として医療や介護、健康分野の地域密着型の職業が見直され、診療報酬が〇・一九%引き上げられたことは一つの光明として評価されています。このような社会の変化の中で卒業生の皆様も、本学の素晴らしい環境、教員の指導のもとで学んだ知識と技術を活用され、夢と勇気と希望をもって、医療福祉の先導者になられるよう期待しております。最後に、医療福祉の現場が大きな変革を迎え多様化が進む中、本学の建学の精神をも一度心に深く留めていただきたいと思います。すなわち、疾病・障害を持つ人も健康な人もお互いを認め合って「共に生きる社会」を目指し、これを築くために「人間中心の大学」「社会に開かれた大学」「国際性を目指した大学」という三つの基本理念のもとに育成された人材こそあなたの方なのです。この先長い道のりとなる人生の中で、本学で学んだ自信と誇りをもって、実りある悔いのない人生を歩まれることを祈念して私の挨拶に代えさせていただきます。

小田原キャンパス

小田原保健医療学部から初の卒業生！

平成一八年四月の開設から四年、小田原保健医療学部にとって初めての学位記授与式が三月一八日木、小田原キャンパス六階の体育館で執り行なわれた。

晴天に恵まれ、加藤憲一小田原市長、神山洋介衆議院議員をはじめ、数多くのご来賓や保護者、教職員に見守られ、学部生一五二名（看護学科五五名、理学療法学科四八名、作業療法学科四九名）、小田原・熱海キャンパスの大学院生一八名（博士課程二名、修士課程一六名）に学位記が授与された。

総代は、松原彩子さん（看護学科）、上村さと美さん（博士課程）、堀本ゆかりさん（修士課程）。

式終了後、松原さんは「とても緊張しましたが、総代に選んでいただき嬉しかったです。これまで支えてくださった先生方や家族、友人のおかげです」と喜びを表した。

続いて、学長賞、高木邦格理事長が会長を務めている日本リハビリテーション学校協会優秀賞が授与された。

- ・看護学科 松原彩子さん
- ・理学療法学科 猪俣裕太さん
- ・作業療法学科 柴田和佳さん
- ・日本リハビリテーション学校協会優秀賞 御園 衛さん
- ・理学療法学科 高田善栄さん
- ・作業療法学科

北島学長が「一人ひとりが医療福祉の専



左から3番目が総代の松原彩子さん

クローズアップ卒業生



看護学科 柏松

感謝

私は中国で家電販売の会社を営営していましたが、手に職を付けたいと思い、両親と子供を残して来日しました。看護師を目指して勉強したこの四年間は、同級生より年上、言葉の壁もある外国人の私にとって簡単ではありませんでした。

常に戸惑う私は、先生やクラスメイトに支えられ、また大田原市による留学生に対する住居の提供や学校側の様々な厚い支援により、良い学習環境を整えて頂いたことに感謝しております。

二年生のときは、「海外福祉保健事情」でアメリカ・ロサンゼルスでの研修プログラムに参加し、今後の自分の進むべき道について新たに考える機会を得ました。

四年間の学びの中で、中国の看護業界との違いとして、日本では患者様の身体面を見るだけでなく、精神面も重視した看護や接し方を学ぶことができ、私にとって貴重な宝になったと思っています。今後は日本の病院で働きながら、患者様



理学療法学科 剣持 美希

可能性との出会い

のための看護ができるように、また大学院への進学ができるように学習を続けていきたいと思っています。最後に、皆様の支えに心から感謝いたします。

「人生における大切なもの」は人それぞれ異なると思います。私が思う国際医療福祉大学はそれを学べる場です。人間性豊かな福祉大生は心優しい人ばかりです。体調の悪い時や悩んだ時などの親しい友達の支えは本当に心強く有り難いもので、何よりの薬でした。気持ちを汲まれる優しさを身にしみて感じ、「信頼と理解」「後悔と反省」の意味とその大切さを学びました。

人生におけるこの四年間、国際医療福祉大学にて学生生活を送れたことを、心から誇らしく思います。発展途上国での医療実習や学会発表等あらゆる可能性を見いだして下さった先生方そして今まで見守り続けてくれた家族への感謝の気持ちを忘れることなく、来春からは社会人として精進していきたいと思っています。在学生のみならず、学生生活は思いの外、長くはありません。悔いのないよう一日一日を大切にしながら、仲間と楽しい時間を過ごしてください。

出会った全ての人に感謝

作業療法学科 林 香織



初めての一人暮らしで嬉しい反面、誰も知らない土地での生活に不安と緊張を抱きスタートした大学生生活ももう終わりを迎えます。振り返ってみれば、先生方や友人達に恵まれたおかげで、私は毎日笑い声の中にいたように思います。カフェや教室、アパートなどで友人達と笑いあって、ふざけあって、時々真剣に悩んで。そんな日々が今では懐かしく、卒業することが惜しくもあります。先生の薦めでパソコン講習会のお手伝いや関連職種連携実習に参加させて頂くこともでき、大変勉強になりました。周囲の人々に支えられて私はこの四年間で大きく成長できたように思います。これまで出会った全ての人に、そして陰で支えてくれていた両親に心から感謝しています。

新しい門出を迎える今、正直不安な気持ちでいっぱいです。しかし、四年間で確実に成長した自分を信じ、これから出会う人にも感謝の気持ちを忘れず、一歩一歩前に進んでいきたいと思っています。

責任を持つことを実感

言語聴覚学科 生井 瞳



言語聴覚士になると心に決め、過ごした四年間はあっという間に過ぎていきました。大学では先生方や友人、実習やボランティア・アルバイトなどで多くの人々と出会い支えられてきました。その中で多くを学び、吸収することができました。今までの経験の中で、障害のある方との出会いを通じ「患者様のことを考える」ことの難しさや奥深さを学びました。患者様を取り巻く環境や、支援方法も多様で答えはいくつもありません。何が正しいのか常に考えフィードバックし、より良いものを提供していく必要があると思えました。特に、四年次の関連職種連携実習では対象者様を中心に各学科の学生と意見を交換し、他職種及び自職種への理解が深まり責任を持つことを実感することができました。

これから、いよいよ言語聴覚士として働くことができます。患者様や地域の役に立てよう今までの経験を踏まえ自己研鑽を続け着実に成長していきたいと思っています。

子供に愛される視能訓練士を目指して



視能療法学科 新巻啓太

私は四年間の大学生活で子供と触れ合う機会がたくさんありました。元々子供が好きなので、三年次の保育実習の他にも幼稚園の遠足の補助などに、アルバイトやボランティアとして積極的に参加しました。子供たちと遊んでいる時間はとても楽しく、名前を覚えてくれて、「一緒に遊ぼう」と言ってくれる子供たちについても元気をもらっていました。

卒業前に園児の視能評価実習を行った際、嬉しい出来事がありました。検査を終えた子供たちが、私たちが行った検査の道具を紙やダンボールで真似て作り、子供同士で検査ごっこをはじめたのです。このことは、私たちが行った検査に興味をもって楽しくできたという証拠だと感じました。

臨床では子供に検査を行う機会はたくさんあると思いますが、学生時代に得た経験を生かして、子供に好かれて楽しくかつ的確な検査ができる視能訓練士を目指して頑張っていきたいと思っています。

良い友人と出会い学んだチームワーク



放射線・情報科学科 鈴木 美樹

この四年間、思い返せばたくさんの出来事がありました。あつという間の四年間、今こう思えるのはたくさんの良い友人達と出会えたからだと思っています。入学して一番驚いたのは実験の多さでした。とても多忙な日々でしたが皆と協力して進めていく中でこの四年間充実した日々を過ごすことができました。私はグループ学習を通してチーム医療には一番何が必要なのかを学ぶことができました。

これから携わる人の命を救う現場には一つの事柄に大きな責任が伴い、最適な医療を提供するのはとても難しいものだと思います。それを実現するために自分一人の力ではなくチームワークで医療を提供できるスタッフを目指し、大学で経験したことを糧に日々取組んでいきたいと思っています。四年間私を支えてくださった先生方に感謝の思いで一杯です。本当にありがとうございました。

人間関係を形成する力を得た



医療福祉学科 飯塚 孝典

この大学に入学して四年。早いものでもう卒業である。

入学式当日は、真新しいスーツに身を包み、「講義についていけるだろうか」「友人はできるだろうか」という不安と緊張に身を固くしながら那須アスリーナに入ってしまったことを今でも覚えている。学生生活はとても楽しかった。大学生になり、初めてサークルに入った。コーラス部に所属し、毎年学祭で披露するために、部員一丸となって練習をした。その甲斐あって、終わった後には大きな達成感を味わうことができた。

また、ボランティアや実習を通して多くの人と出会い、様々な考え方を持った方々と話をしていく中で、人間関係を形成する力を養うことができたと思っています。新年度からは、地元で社会人生活をスタートさせるが、この大学で得たことはいつまでも大切にしていきたいと思っています。

国際人への道



医療経営管理学科 呉 与博

医療情報技術の勉強をしたいと決意し、五年前、家族の元を離れて一人で日本にきました。

生活水準が全く違う日本で、親の負担をできる限り減らしたいと思い、生活費と学費を自分で稼ぎながら、勉強とアルバイトを両立して頑張ってきました。「男は選んだ道を最後まで走るんだ」という父親の言葉が、ずっと私を支えてきました。

そして、学科の先生方の熱心なご指導のもと、二〇〇九年一〇月に医療情報技師の資格を取得することができました。でも、資格を取ったことだけで満足するのではなく、学んできたことを今後の仕事に活かして成果を出したいという思いがあって、国際医療福祉大学・高邦会グループに採用していただくことになりました。これからは、「国際」という名を戴くグループの一員として、中国と日本の架け橋になるよう努力していきます。

クローズアップ 大学院修了生

修士課程

今年、二つの新しいコースの修了生が果立っていきました。文部科学省のプロジェクトである「がんプロジェクト」の「がん登録情報ナリスト養成分野」です。

①がんプロジェクト「がん登録情報ナリスト養成分野」です。がん診療に携わる専門家を養成するこのコースは、自治医科大学と共同で実施中ですが、本学大学院は、診療放射線技師、薬剤師、がん登録に携わる診療情報管理士の教育を行っています。

【診療放射線技師】 前島友則さん



右側前から2番目

「長野県の佐久総合病院で放射線治療に携わる中で、地方の病院では最先端の技術を提供できていないことに気づくようになりました。自分やらなければいけない」と思い、職場の方々に御協力いただき、仕事を早めに取り掛けた。二年前に「〇〇回数センターの実習を続けました。二年前に「〇〇回数更新研修で東京と長野を往復しましたが、医学物理士、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師補の資格も取得できました。一番の財産は、がん医療の最前線で働く方々と繋がりを持てたことかもしれません。私の働く病院では、新施設の設立の準備が始まりました。今後は、地域のために力を尽くしていく所存です」

野田忠明さん



「私が「がんプロジェクト」を志したのは、勤務先の板橋中央総合病院で放射線治療をはじめることができたからです。当時の職場における放射線治療のノウハウは枯れた井戸のようで、途方にくれていたところ、大学院の存在を知り、一念発起して入学しました。

多くの講義と放射線治療現場での臨床研修は、後にイバラの道と気づかれますが、苦勞をする甲斐は十分過ぎるほどありました。知識の習得なら教科書でもできますが、「がんプロジェクト」は、二年をかけて、その課題点を理解し、解決法を模索していくプロセスを持っているからです。また振り返れば、職場の皆様、国立がんセンターの皆様、橋本教授、そして同期の前島さんには、多くのご援助をいただきました。皆様への恩返しは、分割払いで、退職までに返済できれば幸いです」

【薬剤師】 萩原紘子さん



「掲示板の修了者に自分の学歴履歴を確認し、修了したことが分かった瞬間、涙があふれてきました。それは、大学院と国際医療福祉大学の病棟の仕事との両立が、想像以上に辛く苦しいものであったからです。

この大学院に進学しようと思った理由は、入院して抗がん剤治療や疼痛緩和を行っている患者さんに薬剤管理指導業務を行っていたが、患者さんや医師、看護師からの薬に関する質問を受けても、十分に対応出来ない自分に焦りを感じていたからです。在学中は、がん実務研修認定施設で三ヶ月間の病院研修を行い、仕事の公休日や勤務終了後に大学院へ通い、授業がない日は、自宅で深夜までVODで授業を受け、レポートや論文を作成しました。今後

は、今回取得した「がん薬物療法認定薬剤師」の資格を生かして、患者さんから必要とされる薬剤師を目指します」

原田桂作さん

原田桂作さんは北九州市立八幡病院でがん化学療法に携わりながら、このコースを修了しました。今後はがん薬物療法を中心としたメンバートとして、また、後進の指導者として活躍が期待されています。

【がん登録】

この分野はまだ学会の資格がないので、国際医療福祉大学大学院として、がん登録士の修了証書を受けました。

坂本千枝子さん



「このコースでは、病院で長期がん登録の実習をすることが必修になっていて、私は自治医科大学附属病院で、大学院の夏休みを利用して二ヶ月間、実習させていただきました。この診療情報管理士は四名の診療情報管理士の方がいて、医師やコメディカル、スタッフとのコミュニケーションも大変よく、この実習期間を通して、色々なケースのがん症例を学ぶことができました。さらに、私の研究テーマでもある「がん登録の教材作成と教育用がん登録システムの構築」にも大いに参考になる、実りの多い実習をさせていただきました。大変感謝しております」

有吉澄江さん

有吉澄江さんは、広島にもどり、がん登録士として、また大学教員として活躍される予定です。

②診療情報管理士養成コース

診療情報管理は、その専門領域の重要性が指摘されながら、これまで大学での修士課程のコースが日本にはなく、特に、医療情報分析の指導者の養成が望まれていました。このため、本学大学院は、二〇〇八年に日本ではじめて診療情報管理の修士課程を開設し、今年五人が修了、「修士（診療情報管理学）」の学位を授けられました。

荒井康夫さん、有吉澄江さん、伊藤由美さん、坂本千枝子さん、須貝和則さん

んの六名です。今後、これらの人たちが各地で核になって、日本の診療情報管理分野が病院で必須の職業となっていくことを期待しています。

博士課程

仕事をしながら博士の学位をとることはそれほど容易ではなく、三年間に論文ができなかった人も多くあります。しかし、諦めてはいけません。その後三年間に論文が完成すれば学位がもらえます。その中から森川さんを紹介いたします。

森川弘文さん

「株式会社ローソンを勤務取締役で定年退職し、民間企業の経験を福祉にも活かさないかと、社会福祉系の大学と大学院で一〇年間、社会福祉の勉強を続けてきました。しかし、当時の福祉の世界は「経営」はタブーに近いものでした。そんな時、国際医療福祉大学が出している医療福祉経営の図書に出会い、その門をたたきました。博士課程の三年間はあっという間に過ぎてしまい、副論文を書いたところで、単位取得満期退学しました。コンサルト業務に忙しいこともありましたが、それよりも、私の論文作成を消極的にさせたものがありました。私が求めていたのは、定量的な論文を書くことではなく、どうすればサービスを高める経営ができるのかという、つまり「実践的な問題解決に貢献すること」を目的とした実践科学としての「経営学」でした。

論文の提出を諦めかけていたところ、開原先生から再度挑戦するようにとの励ましの年賀状をいただき、気持ちを新たにしました。民間企業の人材育成手法を福祉施設にも応用できないかと考えました。私の経験に工夫を加えて、一つの施設で試み、うまくいきました。私の論文は、主に定性的な分析手法に基づいた内容で構成されています。幸運だったことは、国際医療福祉大学には定量的、定性的の両方の分析手法の視点から論文を評価できる先生がおられたことでした。

博士論文がパスしたのは七歳の秋で、定年後一〇年を経っていました。その間、良き仲間や良き先生たちにも恵まれて幸せでした。これから大学院で学ぼうとする人は論文の書き方を学ぶことに汲々として、専門外の領域にも研究の範囲を広げて、広い視野の持ち主になってほしいと思います」



学生の実習風景

臨地実習に出た学生たち

昨年四月に入学した一期生たちは一年間で学んできたことを実践に移すために、一週間の臨地実習へと出ており、福岡天神キャンパスは静まり返った日々を迎えております（三月上旬現在）。

学生たちは後期の試験期間が終わるや否や、実習担当教員の指導のもと、臨地実習に出るにあたってのオリエンテーションや技術チェック、面接などを受けることで、「いよいよ実習に出るんだ!」「うまく患者さまに接することができたらどうか?」といった期待や不安を実感した様子で、実習に出る前の学生たちの顔つきが、幾分引き締まったように見えました。それと同時に、実習を終えて帰ってくる学生たちを福岡天神キャンパスで

待つ私としては、実習で学生たちが何かを感じ、何かを得、ひと回り成長して帰ってくるのを確信し、すごく楽しみに思えました。

また、学生間の交流や学生生活の充実などを目的とした、学生の学生による「学友会」が十一月に発足し、総会が十二月に開かれました。会長と副会長が承認された後、大学環境をより良くすることを目的とした「学内施設局」、学生が主体となる大学の行事の企画や運営を行う「行事企画局」、部やサークル活動の支援や調整を行う「部・サークル局」といった組織の代表が決められ、一年間、それぞれの活動を行ってまいります。しかし、一期生のため見習う先輩もおらず、学生たちは何をしたらよいのか分からないため、教職員が顧

そんなふうには頑張っている学生に負けじと、教員も教育力アップを目指して、二月には早稲田大学の安彦忠彦先生を招いて「効果的な授業と授業方略」のFDセミナーを、三月には九州大学の加藤和生先生を招いての「心を科学的に研究

教育力のアップを目指して

五月の運動会を迎える運びとなります。これと同時に、部・サークル局の学生メンバーも新入生の勧誘に向けて動き始めました。勧誘活動時に問題が起らないように取りまとめを決めたり、日時を決めたりしています。このように学生たちが主体となって活動する様子を近くで見ていると、学生の成長を垣間見ることができ、すごく嬉しく感じる瞬間でもあります。



するとは」のFDセミナーを本学部主催で行いました。どちらのセミナーも学内外の多くの出席者から有意義だったと好評をいただきました。本学部の教員の多くも翌日から早速、セミナーで学んだ内容を来年度シラバスに活用したり、研究に対する探究心が深まり、より意欲が湧いてきたという者もいたり、開学一年目にして効果的なFDセミナーが行え、今後の教育・研究活動に期待が持てるものとなりました。また、他大学・他組織で開催されるFDセミナーへも各教員が積極的に参加をし、個々人の教育力を上げる努力もしています（左表参照）。

教員が参加したFDセミナー

- ・ 経験型実習指導教育について
- ・ 看護教員のクリニカルスキル向上
- ・ 学生の成長を促す組織的な大学教育への進化を目指して
- ・ 人間関係を豊かにするアサーション
- ・ コーチングを主体としたポートフォリオ

四月から福岡看護学部は二年目。学生も、教員も、学部としても、まだまだ成長過程ですが、いろいろと成長していく姿が楽しみです。

(福岡看護学部 講師 中山晃志)



1日目の様子 (自己分析)

三年次生対象「就職対策講座」始まる

昨年に引き続き、小田原保健医療学部では、就職活動サポートの一環として、外部の講師を招き、就職対策講座を三日間（第一回目・三月十日・十二日）にわたって開催しました。

就職活動は、仕事の「本質」を理解し、働くことの「目標」と「目的」を明確にすることが重要となります。大学とは「教わる」のではなく、「学ぶ場」です。学生には答えがひとつではなく、幾つもあるのです。したがって、仕事に対しては、「自らの方向性を探し、自らが意思決定する力」が求められます。

例えば、病院・福祉施設等は、「会社説明会」「病院説明会」「福祉の職場説明会」

などを積極的に展開しています。これは学生自身に自らの職場について、仕事内容、業界の動向等をより深く知ってもらうために実施しているのです。したがって、学生にとっては、またとない絶好のチャンスとなり業界研究の場となります。しかしながら、そのことに気づいている学生はごくわずかしかいません。

これからの就職活動で大切なのは、人事担当者やそこで働いている方々から「生の声」を実際に聞き、自分の果たすべき役割（何をしたいのか、何が出来るのか）を明確にし、コミュニケーション能力や自己表現のコツを身につけることです。すなわち、積極的に行動し、熱意を持って自らをアピールすることにより、「不安」から「自信」に、「自信」から「確信」に繋がります。「学ぶ力」をつけることで

キャンパス間交流

二月十九日（金）、バレー部員一七名を対象に、大田原キャンパスとのキャンパス間交流を実施した。

過去に実施されたキャンパス間交流では、部活の交流試合のみの実施であったが、今回は学生からの強い希望もあり、午前中に大田原キャンパス構内・リハビリテーションセンター・クリニックの見学や、小田原キャンパスにはない学生食堂での昼食を織り込んで実施。キャンパス見学においては、キャンパスの広さに圧倒されるだけでなく、見学する中で



3日目の様子 (上：基礎編、下：実践編①)

いエントリーシートの書き方を始め、履歴書の書き方、小論文対策、面接対策等がこの就職対策講座の中で、学習し、自らの就職活動にいかしててください。

※今回の講座（第一回）は、三月二十四・二十六日に開催されました。

実施内容

（一日目 三月一日）

- ・ 自己分析
- ・ エントリーシートの書き方

（二日目 三月二日）

- ・ 履歴書の書き方
- ・ 小論文（基礎編）
- ・ 小論文（実践編①・②）
- ・ 面接（基礎編）
- ・ 面接（実践編①・②）

（学務課 今井清健）

「小田原キャンパスはキャンパスの規模が小さい分、教職員との距離が近くて良い」と小田原キャンパスの利点を見出し続けていた。

午後からは、那須アスリーナにおいて、大田原キャンパス バレー部との交流試合を実施。キャンパス間で分かれての試合、混合チームでの試合を行い、短い時間ではあったが交流を楽しんでいた。

試合終了後、大田原キャンパスの学生との別れを惜しむ姿も見られた。今後も定期的にキャンパス間交流を実施していきたい。（学務課 下田岳史）



学位記授与式

修了生総代瀬戸僚馬さんに、それぞれ学位記が手渡されました。

表彰では、学長賞、日本リハビリテーション学校協会「優秀賞」の授与が行われ、学長賞を受けた松葉萌さん(理学療法学科)をはじめ四名に表彰状が手渡されました。

続いて、北島学長、開原大学院長、高木理事長が式辞を述べられ、卒業生、修了生を祝福するとともに、今後の研鑽と活躍を期待する言葉が贈られました。

来賓としてご参列いただいた方を代表して、植木光治大川市長、古賀一成衆議院議員、鳩山邦夫衆議院議員、松本英則大川三

位記が手渡されました。学位記授与式のあとは、理学療法学科作業療法学科それぞれに分かれて「学位記伝達式」が行われ、一人ひとりに学位記が手渡されました。

作業療法学科では、入学時の写真をバックに、学位記を受け取り、卒業生は一言ずつコメントを述べました。卒業生からは、四年間苦業とともにした同級生や教員、そしてここまで育ててくれた保護者の皆さんへの感謝の言葉がのべられ、



感動的な伝達式となりました。総代

田代大佑さん(作業療法学科) 瀬戸僚馬さん(大学院博士課程) 中村泰子さん(大学院修士課程) 学長賞

松葉萌さん(理学療法学科) 田代大佑さん(作業療法学科) リハビリテーション学校協会「優秀賞」 森野早紀さん(理学療法学科) 夜久加代子さん(作業療法学科)

「環境(自立)介護家具シンポジウム in 大川」

二月二〇日(土)・二二日(日)、大川市の大川産業会館において、「環境(自立)介護家具シンポジウム in 大川」が開かれました。

本シンポジウムは、福岡リハビリテーション学部作業療法学科の齋場三十四教授が中心メンバーとして活動し、家具コ

ンシエルジェを養成(七九号で既報)している大川福祉家具研究会や、大川未来塾、大川元気再生事業推進委員会・大川市の主催によるもので、本学も後援として名を連ねてい

ます。シンポジウムの狙いは、家具の街である大川市の産業の新たな柱として環境

介護(自立)家具を普及させることにあります。



シンポジウムには家具製造関係者のみならず、医療や福祉の分野に携わっている方や近隣にお住まいのみなさんなど、たくさんの方が詰めかけ、会場は熱気に包まれました。

開会の挨拶で齋場教授は、「世の中のニーズに大川の家具が応えていない。そこで私は「環境(自立)家具」という名前を提唱した。元気で長く「自分の力」で生活していただくための戦略として家具をとらえ、自立した生活へのニーズに

応える家具を世に送り出したいと考えて。大川ってこんなことができるのだ、ということをおっしゃっていました。

二日目は、本学大学院医療ジャーナリズム分野の大熊由紀子教授が駆けつけ、「北欧に学ぶ。認知症の『暮らし』を支える」をテーマに記念講演を行いました。

大熊教授は、デンマークの一九五九年法)を引き合いに、ノーマライゼーションとその実現のために、デンマークにおいてどのような取り組みが行われたか、紹介されました。

このほか、デンマークからお二人の作業療法士を迎えた記念レクチャーや、自立支援を支える家具のプレゼンテーションが行われ、シンポジウムは盛況のうち幕を閉じました。

(入試広報部 横溝 公紀)

トピックス

Topics

「ニッセイ同和損害保険株式会社 岡崎名誉会長と奨学生との懇親会」を開催

二月一七日(水) 大田原キャンパス那須アスリーナにおいて、ニッセイ同和損害保険株式会社の岡崎真雄名誉会長を招いて、同社奨学生との懇親会を開催した。

この奨学金制度は、同和火災海上保険株式会社(当時)が本学設立の趣旨に賛同し、同社創立百周年記念事業として平成八年度に設立され、平成九年度から実施されている。



平成一三年二月より、本制度の設立にご尽力いただいた岡崎名誉会長(当時社長)を招いて懇親会を行っており、今回で一回目となる。

懇親会には北島学長をはじめ、岩尾副学長、杉原副学長、各学科長および現在奨学金を受給している学生二十四名が出席した。また、今年度は大川と小田原の

両キャンパスからも二名ずつの奨学生が参加した。北島学長の歓迎の辞に続いて、岡崎名誉会長からご挨拶と奨学生に対する励ましのお言葉を頂戴した。

須藤先生 最高裁判事就任

本学客員教授の須藤正彦弁護士が、平成二二年一月二二日に最高裁判所判事に就任された。



このため、一月一八日の授業が最終講義となり、これが「記念授業」としてF201教室で公開された。

戸田総合教育センター長のご紹介挨拶に始まり、「法学・民事訴訟法」の講義を履修学生とともに教職員や一般市民が熱心に受講した。伊藤常務の謝辞の後、花東贈呈で華やかに記念授業を終了した。

マロニエ苑20周年記念式典

「開学以来ここで教えてきたが、逆に、医療福祉に様々な問題があることを教えられた。他の判事とは違ったこの貴重な経験を裁判官生活に活かしていきたい」と抱負を語られている。

教職員一同、須藤判事のご活躍を心より祈念いたします。(大田原キャンパス 総務課)

平成二二年二月一三日(土)午後二時から国際医療福祉大学F101教室において、介護老人保健施設マロニエ苑設立二〇周年記念講演会並びにパネルディスカッション(テーマ:これからの老人保健施設と課題)が開催された。

- 講演会は、
- 鈴木康裕氏(厚労省前老健局老健課長)
- 「日本の高齢者施設の役割と課題」
- 杉原素子氏(本学副学長)「老人保健施設とリハビリテーションの役割」
- 竹内孝仁氏(本学大学院教授)「老人保健施設の今後の課題」マンパワー・介護報酬・おむつゼロ」
- の三名が、それぞれの専門分野からの視点で老健施設の在り方を深く探求した。
- パネルディスカッションは、高木理事長が座長となり、三名の講演者の他に、
- 平山登志夫氏(千葉県老人保健施設協議会会長)
- 和田勝氏(本学大学院教授)
- 黒岩祐治氏(ジャーナリスト・本学大学院教授)

の皆様方にご出席をいただいた。マロニエ苑は平成二二年一〇月に栃木県内で四番目の老人保健施設、また入所定員二〇〇名の国内最大規模の老健施設として設立しました。敷地内採掘の天然温泉(マロニエ温泉)は源泉掛け流しで施設入所者及び通所サービスご利用者の入浴に毎日使用しています。



著名な先生方の講演を聞くことのできる絶好の機会となり、地元行政関係者の他、老健施設関係者やリハビリ関係の在学生、一般市民の方など、総勢四五五名の皆様方にご出席をいただいた。



看護学科 卒前プロジェクト研修



国家試験が終了し、卒業間近の四年生に平成二二年三月二日から三日間、私学助成対象事業である基礎教育と職場のギャップを埋めるための研修を行った。

新人看護師のスムーズな職場適応への一助となることを目的に昨年度より準備を進めてきた。就職後早期に行う業務を想定し、決められた時間内に多重業務を行うもので、模擬患者には瞳孔反射や心音等が観察できる精巧なモデル (Physiko 京都科学社製) を用いた。

今回は、試行プログラムとして一七名がチャレンジし、参加した学生からは、「卒業を前に楽しく行え、とても有意義な研修だ」という感想が聞かれた。次回からは希望する学生が参加できるように計画を進めている。

(看護学科卒前プロジェクト 新野峰子)

福祉用具発明&工夫コンテスト 「優秀賞」受賞

栃木県作業療法士会が主催した「第四回福祉用具発明&工夫コンテスト」において、本学科一年廣田祐樹さんが「優秀賞」を受賞した。

福祉用具とは、障害者や高齢者の生活を支援するための道具や機器のことで、作

合格することができた。

OSCEを無事終えることができたのも、ご協力いただいた皆様のおかげです。OSCEは毎年実施されますので、よろしくお願ひ致します。

(薬学科助手 田島正教)

第三回森田杯・英文毎日杯へ で紹介する日本文化プレゼンコンテスト 出場

去る二月一九日、京都外国語大学において「第三回森田杯・英文毎日杯へで紹介する日本文化プレゼンコンテスト」が開催された。この大会は大学生が二人一組となって英語で日本文化のプレゼンテーションを行う。全国から四九組の応募があり、本学薬学部一年の小笠原夕希子さん、看護学科一年の半田理瑛さんペアが見事に二回の予備審査を通過し、本選に臨んだ。

【Good Medicine Tastes Bitter—Japanese Traditional Herbal Medicine】(良薬口に苦し—日本の伝統薬—と題し、日本に古くから伝わる生薬について、乾燥したドクダミやゲンノショウコの実物を見せたり、スライドを活用して発表を行った。メモを取りながら熱心に聞き入る外国人の姿も見つけられた。この大会に向けて、長時間にわたり毎日練習を重ねてきた二人だが、惜しくも入賞は逃した。しかし、外国語専攻ではない一年生が本選まで進めたことは快挙であり、今後の彼女たちの学生生活に大いに生かされるに違いない。

(総合教育センター語学教育部)



業療法士が得意とする分野である。今回受賞した

「着脱式マジックシューズ」は、障害を持つ方が履きやすいよう、また福祉用具にありがちな見た目の問題にも配慮した点が高く評価された。

来年のコンテストにおいても、実習やボランティア等で閃いたアイデアを形にした本学科学生の作品応募・受賞に期待したい。(作業療法学科助教 高村直裕)



言語聴覚学科 「韓国ナザレ大学との学生交流会」

二月四日、韓国ナザレ大学 (Korea Nazarene University) の言語聴覚学科の学生一五名が研修目的で来学した。午前中は、本学科三年生と学習内容やそれぞれの大学について英語でのプレゼンテーションを行った後、情報交換した。午後は言語聴覚センターや国際医療福祉大学病院を見学した。質疑応答の時間では、言語聴覚士を目指す動機、実習、実際の言語指導などの他に、好みの俳優や美容などの話題もあり、大いに盛り上がった。韓国ナザレ大学と本学の言語聴覚学科との交流はこれで三度目になる。今後は



第四回ESSC 入賞

日本「アジア英語」学会主催の英作文のコンテストで本学放射線・情報科学科の前田雄大さんが優秀賞を、理学療法学科の多和田真希さんが佳作を受賞した。

ESSC (Extremely Short Story Competition) とは、「極めて短いストーリー」の英作文コンテストで、フィクション、エッセイ、感想、思い出などを五〇語で自由に書くもの。今回は千二百作品もの応募があった。

前田さんの「One for all, all for one」は、本学および、医療についての本質を描いた胸を打つ作品である。本学の全ての学生にぜひ読んで欲しい。また、多和田さんの「Life」は十代の若者の心のひだを絶妙なリズムで表現している。いずれもESSCのHPで閲覧可能。
http://essc.fac.jp/2009_award_work.html (総合教育センター語学教育部)

Life Maki Tawada	One for all, all for one Yudai Maeda
Life is long. But life is short.	"One for all, all for one"
Life is wonderful. But life is dull.	The proverb is important for our university.
Life is sweet. But life is bitter.	Our university educates various medical experts.
So I can laugh and cry. So I can feel up and down.	It is difficult for a single expert to save lives.
I always think that I can look up at the sky. Because I am alive now.	But, various medical experts gather and then we can help a person's life.
	Our university students have to have the spirits.

視機能療法学科 実習指導者会議

学術交流も含めて親交を深めたいと思う。(言語聴覚学科教授 城間将江)

二月一九日、視機能療法学科では、五月から始まる平成二二年度臨地実習に向け、東京青山キャンパスで実習指導者会議を開催した。本会議は充実した実習にするための貴重な情報交換の場。北島学長のご挨拶の後、昨年度、実習施設側から提起された問題点やご要望に対し、大学側の取り組みについて説明した。様々な患者様への対応を念頭においた接遇面の指導に加え、実習に入る段階での学生の知識や技術の到達レベルのばらつきに対し、実習ガイドラインの策定にも取り組んでおり、現場の指導者の皆様からご意見を伺う貴重な機会となった。懇親会では実習施設間の情報交換もなされた。今後、より質の高い臨地実習に向け実習施設側と手を携えて取り組んで参ります。

(視機能療法学科講師 小町祐子)



二〇〇九年度 医療管理学科 認定資格合格者表彰式

一月二一日、医療経営管理学科と医療福祉・マネジメント学科ではマネジメン

映画を見るのが好きで、ホラー映画以外はなんでも見る。特に気に入っているのは、イングリッド・バーグマン出演の作品である。その中でも「カサブランカ」で共演しているハンフリー・ボガードは私の永遠のあこがれである。ある女性に昨日何をしていたのか問い詰められると

「そんな昔のことは忘れた」とかつこよくかわしている。

しかし、同じ台詞を違う状況で言ってしまうとえらいことになってしまう。最近、簡単な漢字を板書しようとして書けずにはやく狼狽した。また、質問に指名した学生の名前が言えずに気まずい思いをしたことは一度や二度ではない。このような状態で、もし医師の診察にハンフリー・ボガードばりの返答をしようものなら「明日の記憶」の渡辺謙さんと同じく若年性アルツハイマー病として扱われるのが落ちである。アルツハイマー病は記憶障害が一番の中核症状であるが、それをコーピングしようとして取り繕い行動を見せることがある。



為数哲司

福岡リハビリテーション学部
言語聴覚学科 准教授

れないためか、取り繕いで突然自分の亡くなったご主人のことを語り始めた。その内容は養子に育てもらったご主人にやさしくせず申し訳なかつたという謝罪と感謝をあらわすものであった。その話を聞き、失われていく記憶の中で相手に対する思いが宝石のように美しく大切に残っていることに感動した。生活上は記憶の問題で介助なしで生活できないような状況でも、他人に対して語ることができる思い出を持つていくことにうらやましさを感じた。

翻って自分自身はどうであろうか。家族から毎日細々と生活上のだらしないさを指摘され、治すように強要される。だが、性格が鷹揚なため、一向に意に介すことなく、しかられてはいるだけで終わってしまった。この調子だと、人生の終末には家族の悪口を言い続けるじいさまになりさがるのが落ちであることに気づけた。晩節を汚さぬよう、家族が不愉快にならないよう、今から生活を変えねばならないことを患者さんから学ばせてもらった。

私の主張 第15回

晩節を汚さぬために一昔のことは忘れない



薬学科 薬学共用試験OSCE

平成二二年一月一〇、一一日、薬学科四年生を対象に薬学共用試験の一つであるOSCE (客観的臨床能力試験) を実施した。試験は、「薬剤の調製」、「無菌操作の実践」、「情報の提供」など六課題を行う。一人の学生に対して、二名の

評価者(教員・薬局薬剤師・病院薬剤師)が評価をし、OSCEに合格しないと五年次に実施する病院・薬局実務実習を受けることができないため、学生は緊張の中、真剣に臨んでいた。学生のこれまでの努力が実り、受験者全員が





術後5日で退院し退院後2日目まで職場復帰し、東京から福島へ出張する患者さんの写真

チーム医療で質の向上
胃がん患者に対して術後5日で退院するプログラム「5DDP (5 Days Discharge Program)」

昨今、胃痛の治療において、内視鏡手術や腹腔鏡手術を用いた低侵襲手術が注目されている。この腹腔鏡下手術は、これまでの開腹手術に比べ出血量が少ない、術後消化管の回復が早い、術後呼吸機能の障害が少ない、入院期間が短いなどのメリットがある。当院でもその利点を活かして、パイロット試験を経た後、二〇〇八年一月より腹腔鏡下胃全摘術と腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行する患者さんに対して、早期退院を援助するプログラム5DDP (5 Days Discharge Program) を

導入した。5DDPの骨子は、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士などが連携し、術後早期経口摂取、早期リハビリテーション、徹底した疼痛緩和および多職者からの精神的支援の提供などからなる。入院前から外来・病棟が連携し患者の不安を取り除き手術に臨めるよう関わりを持ち、退院後も患者さんへ電話や外来での面談を行い日常生活などについての不安や疑問の解消に努める。早期に退院できることは、入院前の生活に早期に戻れることから、身体的、精神的な回復に繋がる印象を受けている。5DDPは多職種の医療者が力を集約するチーム医療である。

当院にて中学生対象の外科手術体験「キッズセミナー」を開催しました。医師不足が深刻化する中で、外科医を目指す子どもを増やすことを目的に、県内の中学生三〇名を対象とし、自動吻合器やエコー・超音波メスなどの最新医療機器を使用した外科手術セミナーを平成二二年三月二七日に開催しました。

参加した中学生から貴重な体験が出来たとの感想が聴かれました。国際医療福祉大学病院 副看護部長 室井 幸江 (鈴木 裕)

施設インフォメーション

News: Affiliated Facilities

附属病院

国際医療福祉大学病院

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

昨年一〇月下旬に地鎮祭を実施し、以降半年間建設作業をしておりました。医師宿舎がこのたび完成いたしました。宿舎名は「アミティ塩谷」です。この宿舎は塩谷病院敷地内にあり、駐車場約百台分程度の敷地面積をとっています。鉄筋コンクリート造り三階建となっており、一階が食堂、風呂等の共有スペース、および管理入室。二階、三階が医師宿泊用の部屋となっています。部屋数は十三部屋のうち定住型ルームが九部屋、ゲストルームが四部屋です。

- この宿舎のアピールポイントは、
- ①共同浴場の浴槽は檜造りで、ゆっくりとくつろぐことができます。
 - ②また、その共同浴場にはサウナ室も備えつけられており、
 - ③全室南向きで、そこから見える風景は目の前に川と畑、目を少し西に向けると高原山が迫っており、栃木の四季折々の自然を堪能していただくことができます。

定住型ルームは1LDKですが、五四㎡と広く、ゆったりと生活を楽しくいただくことができます。また、お部屋には生活に必要な家電のほか家具も備えつけられており、体ひとつで入居していただくことが可能な状況になっております。ゲストルームについても三四㎡とホテル以上に広く、お手洗い・浴室別でキッ



アミティ塩谷

チンまで備えつけており、そこで生活しても十分な住環境となっております。また、引き渡し完了したばかりで、運用面についてはこれから構築していかなくてはならない状況にありますが、この四月より、国際医療福祉大学の施設として仲間入りをいたしました「アミティ塩谷」を今後ともよろしく願っています。(総務課・管理課)

2009年度 前期・乃木坂スクール開講講座

講座番号	スタート日時	回数	定員(東京)	講座タイトル	コーディネーター	受講料(一般)	通隔	ネット中継
#01	4/12 (月) 18:30-20:30	15回	80名	「DPCデータの解析と利用」	高橋泰	¥36,000	〇	〇
#02	5/17 (月) 19:00-21:00	10回	50名	「常に最新の有用な専門知識を習得するためのe-Learning講座・バージョンアップ版」	田中繁	¥35,000	〇	〇
#03	5/10 (月) 18:30-20:30	4回	20名	「看護研究と文献活用」	今田敬子	¥15,000	-	-
#04	4/13 (火) 18:00-19:30	14回	80名	「初歩から学ぶ統計学入門」	河口洋行	¥36,000	〇	〇
#05	4/13 (火) 18:00-19:30	13回	80名	「医療情報システム概論～基礎から最新の話題まで～」	開原成光	¥36,000	〇	〇
#06	4/14 (水) 18:30-21:00	12回	100名	「ケアマネジメント・認知症ケア・介護予防のための講座」	竹内孝仁	¥36,000	〇	〇
#07	4/14 (水) 19:40-21:10	15回	40名	「治療支援スタッフのための基礎と応用」	中野重行	¥36,000	〇	-
#08	4/14 (水) 18:30-20:30	15回	20名	「病院のIT化と経営戦略への応用」	開原成光 外山比南子	¥50,000	-	-
#09	4/15 (木) 19:40-21:10	12回	60名	「創薬と育薬のための臨床試験の最新動向と展望」	中野重行 大西純一	¥36,000	〇	-
#10	4/8 (木) 19:40-21:10	13~15回	50名	「医療におけるデータマイニング技術の活用とその価値を知る」	武藤正樹	¥36,000	〇	〇
#11	4/8 (木) 16:20-19:30	15回	20名	「エンブレオロジスト必修講座」	橋田薫	¥36,000	〇	-
#12	4/16 (金) 18:30-21:00	12回	80名	「実習の医療・福祉・政治の方向性・福祉ジャーナリズムの視点から」	大熊由紀子 黒岩祐治・丸木一成	¥36,000	〇	〇
#13	4/17 (土) 18:50-20:50	8回	10名	「動作分析体験コース」	藤平純司 山本達子	¥45,000	-	-
#14	4/17 (土) 18:30-20:00	11回	100名	「地域連携コーディネータ養成講座2010」	武藤 正樹	¥33,000	〇	〇
#16	5/1 (土) 14:00-17:30	各9回	各30名	「外国人労働者の雇用と労働環境に関する調査のためのスウェーデン・フィンランド・ロシア・ロシア」	相原 和子	¥54,000	-	-
#17	4/17 (土) 12:50-17:50	5回(6)	30名	「診療情報管理講座～疾病コーディング(上級)～」	鳥羽 克子	¥30,000	-	-
#18	4/24 (土) 12:50-17:50	5回(6)	30名	「診療情報管理講座～疾病コーディング(中級A)～」	鳥羽 克子	¥30,000	-	-
#e-1	VOD授業		医学用語初歩		開原 成光	¥15,000	-	-
#e-2	VOD授業		役に立つ福祉用具の今日・明日・未来		田中 繁	¥5,000	-	-

大学院では、毎年授業の一部を、広く一般の方々にも公開講座「乃木坂スクール」として開講しています。今年度前期も、医療・福祉関係を中心に、一七講座を開講します(左表を)参照ください。講座ごとに、本学の教員以外にも、テーマに合わせた著名なゲスト講師をお招きし、ご講義いただきます。(詳しくはHPをご覧ください) また、当日都合で来られない方は、イン

ターネット同時中継を実施している講座は、手続きさえしておけば、一週間の間はいつでも視聴できます。院生の方は、授業科目以外でも、ほとんどの講座が無料となりますので、ご自身の興味に合わせて受講いただくことも可能です。また、卒業生・修了生及び教職員の方は、半額以下で受講できます。なお、人気の講座は既に締切りが出ています。HP上でご確認ください。一人でも多くの方に「乃木坂スクール」のすばらしさを味わっていただきたいと思えます。(大学院東京青山キャンパス 川端穂)

乃木坂スクール 2010年度前期開講のご案内

四月一六日(金)、二〇一〇年度前期乃木坂スクール#12「変革期の医療・福祉・政治の行方」が開講し、その第一回「社会保障における政治の役割」(コーディネーター・黒岩祐治教授)のゲスト講師として安倍晋三元首相が本学東京青山キャンパスを訪れた。

乃木坂スクールのゲスト講師として安倍晋三元首相来訪

四月一六日(金)、二〇一〇年度前期乃木坂スクール#12「変革期の医療・福祉・政治の行方」が開講し、その第一回「社会保障における政治の役割」(コーディネーター・黒岩祐治教授)のゲスト講師として安倍晋三元首相が本学東京青山キャンパスを訪れた。もともと社会保障との関わりが深い元首相は、冒頭で介護保険制度の立上げの際の政権内部のエピソードに触れるなどリラックスしたムードも演出。小泉内閣が始めた構造改革や昨今の医療崩壊などについて、ご自身の選挙区に医療崩壊が起きていないことを例に挙げながら、わかりやすく持論を展開された。団塊の世代が六五歳に突入する二〇一三年問題は医療福祉が直面する大きな課題。医療福祉分野の発展や従事者の生活向上のためにも経済の発展が重要であることを強調し、この面から、鳩山政権の政策に疑問を呈していた。(東京事務所広報室)



本学大学院黒岩教授の進行で熱心に語る安倍元首相。生徒からは「新報2001」をライブで見ようだった、という感想も聞かれた。

2010年度入試状況

◆2010年度入試 学部別志願者数

学部	定員	志願者数()は昨年度
保健医療	480名	2600名(2528名)
医療福祉	160名	341名(307名)
薬	180名	979名(365名)
小田原保健医療	130名	1216名(1336名)
福岡看護	80名	487名(254名)
福岡リハビリテーション	160名	414名(527名)
合計	1190名	6037名(5317名)

三月に実施した「大学入試センター試験利用入試Ⅱ期」をもって、二〇一〇年度の入学試験が全て終了した。今年度は、一昨年後半からの景気の後退を受け、特待生特別選抜入試の導入や授業料減免制度の大幅拡充など、学費サポート制度を大きく充実させた年度となった。また、地方試験場の拡充や試験科目の変更など、受験者がより受験しやすい環境を整えたこともあり、本学全体として昨年度を上回る六〇三七名の方に受験いただくことができた。医師不足が大きな問題となっている中で、各専門職が医療現場で果たす役割は年々大きくなってきている。見事に合格を勝ち取った受験者の方々には、受験勉強で培った努力・経験を基に、将来のチーム医療を支える医療福祉のエキスパートとして活躍されることを望んでいる。次年度以降の学生募集でも、厳しい環境は続く。受験生に選ばれる大学であるために、これまで以上に教職員が一丸となり、本学独自の魅力を構築・発信することが必要だと感じている。(入試センター入試課)



山王病院
リハビリテーションセンター拡充再開
平成二二年二月一日より「リハビリテーションセンター」を拡大しました。これまで、山王メディカルセンター建替の影響で、リハビリ部門を縮小していましたが、ご利用される患者様や周囲の方々からの要望も強かったため、再度リハビリテーションセンターを整備し、リニューアルするに至りました。
七階建ての山王病院の三階にリハビリテーションセンターは位置しています。現在のメンバーは、理学療法士三名、作業療法士一名、言語聴覚士二名と、当グループ内のリハビリテーション施設としては小さい規模かもしれませんが、できるだけ細やかに一つひとつのニーズに添えていくようスタッフ一同邁進していきたいと考えています。各科医師の方々からも患者様へインフォメーションいた

ボイスセンターは、『声がれ』や『声でにくい』など声に何らの問題が生じている方の診断・治療を専門におこなっています。音声障害・喉頭疾患を専門とする医師とリハビリテーションセンター所属の言語聴覚士が連携をとりながら診療にあたっている点も大きな特長です。医師の診療場面に言語聴覚士が立ち会い患者さんの声帯の状況を観察しながらリハビリ治療方針を決定、遠方からいらっしゃる方もいますので受診したその日にリハビリを開始できるよう心がけています。
声は無理な使い方や使いすぎですぐに枯れてしまいます。みなさん喉をいたわり大事にしましょう
(言語聴覚士 佐藤剛史)



き、運動器疾患、脳血管疾患、神経難病、呼吸器疾患をはじめ各種、数多くの依頼をいただいております。
今後は、山王メディカルセンターや国際医療福祉大学三田病院等、グループ関連病院施設や、また介護保険への移行においても、グループホーム青山、新宿げやき園等との連携を密にし、より適切にサービスを提供されるよう努力して参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。
(リハビリテーションセンター主任 理学療法士 指方梢)

化学療法研究所附属病院
学生のみならず、皆さんこんにちは。化研病院 リハビリテーション室です。私たちの病院では、年間約三〇名の理学療法学科・作業療法学科の学生を実習生として迎えています。皆さんは実習に対して、どのような印象を持っていますか。厳しい、怖い、不安、または楽しい、期待・・・様々な思いがあると思います。臨床実習では、学校の授業で学んだ内容を、実際の臨床場面どのように活かすのか、何を観察・評価し、何をを行うのか・・・現場では卓上で学んだ基礎知識の他にも、たくさんの方が求められます。
今回は実習施設である臨床現場の立場から、学生のみならず実習に向けての心構えをお伝えできればと思います。
臨床実習にあたって、学生の皆さんはどのような準備をしますか。解剖学や生理学、運動学、評価学など基礎知識の見直しは最低でも必要です。実際に学んだ知識を臨床現場にてどう活かしていくのか、また、患者様に「迷惑のかからぬ様、手際よく検査・評価が行えるように手順の確認や模擬練習などを行っておくことも必要です。
また、基礎知識以前に必要となってくるのが、コミュニケーション能力です。患者様とはもちろん、スタッフ同士の連携も重要です。いくら学生といえども、臨床現場に立つということは医療現場の



一員として参加することとなります。学校とは違い、目上の方々やコミュニケーションを図る機会が多く、話し方や表現の仕方など、様々な面を考慮し、社会性を持って行動する必要があります。
どなたにも得意・不得意な面は必ずあると思いますが、資質面、それを問われるのが一番の課題かもしれません。どんなに準備をしても、患者様を目の前にすると緊張感を伴い、思ったようにならないのは当然。それを学ぶのが臨床実習です。ですから、ただの一経験として実習に臨むのではなく、自分なりの目標をしっかりと持ち、探究心・向上心を積極的に発揮し実習を達成できるよう、心の準備をしっかりと行うことが大切です。
充実した臨床実習となるよう、共に研鑽していきましょう。
(リハビリテーション室 山崎千晴)



吉本賢隆教授による講演「乳がん—早期発見に向けて」

国際医療福祉大学三田病院
心臓病センター開設
二〇〇九年一月に心臓病センターが開設されました。センター長には、小川聡院長が就任され、専属のスタッフと最先端の医療機器を揃え、心臓病、循環器疾患全般にわたって、予防から急性期医療へも対応できる診療単位が組織されました。二〇一〇年一月からは、心臓カテテル部門の運用が開始され、冠動脈形成術も始めています。また、二〇一〇年四月より、心臓病センター外来部門と同じ四階に併設された集中治療室とあわせ、年間三千例を超える手術例の術前・術後管理を充実させ、周術期の心血管事故の発生を未然に防ぐ体制を整備できました。新病院に先駆け、ハイレベルな心臓病診療の提供が始まっています。
第四回一般公開講座開催
二〇〇九年一月一日、第四回一般公開講座を開催しました。乳腺センター長

吉本賢隆教授による講演は「乳がん—早期発見に向けて」。
来場者は、これまでの公開講座と比べ、年齢層が若く、ほとんどが女性でした。講演後の質疑応答も活発で、関心の高いテーマであることがうかがえました。
今後も様々なテーマで定期的に開催し、患者様や地域の皆様に役立つ医療情報を提供してまいります。
医療安全推進週間
三田病院では、毎年、医療安全推進週間(厚生労働省制定・毎年一月二五日を含む日曜から土曜までの一週間)に、医療安全研修会を行っています。今年も医療安全標語の募集を行い、最優秀賞を決定しました。
『安全は、基本を守る 積み重ね チェックヨシ!』
スタッフ一人ひとりが医療安全に取り組むことをこの標語にこめて、今後も安心・安全の医療を提供してまいります。
「東京都認定がん診療病院」に再認定
二〇一〇年四月より、三田病院は「東京都認定がん診療病院」に再認定されました。東京都認定がん診療病院とは、東京都が都民に高度ながん医療を提供するため、国が指定するがん診療連携拠点病院と同等の高度ながん診療機能を有する病院を選定し認定するもので、今回の再認定期間は本年四月より二〇一四年三月末日までとなります。
今後がん診療の一層の充実強化を図ってまいります。(総務企画課)



左から鈴木さん、佐々木さん、篠永教授、山崎さん

国際医療福祉大学熱海病院
医療関連感染(院内感染)防止対策体制の充実
医療関連感染(院内感染)が生じると感染症の治療などに莫大な費用が生じるため、感染対策により医療関連感染を予防することは、医療費抑制に大きく貢献することが出来ます。また、DPC(診断群分類別包括評価)を導入している病院では、感染症によって生じた入院期間の延長やそれに掛かる費用は病院の持ち

出しになり、病院経営を圧迫させる要因にもなります。
さらに感染症病床四床を併設した第二種感染症指定病院ともなっている熱海病院は、地域から期待されることも多く、感染対策においてリーダーシップをとって行くことが求められております。
このような背景の中、当院ICDならびに前臨床検査科・伊藤章教授の指導と本人たちの努力で、感染対策や安全対策のスペシャリストとして、公的な機関から認定された有資格者が続々と誕生しております。
今後もさらにスペシャリストの力を集結させて、感染対策を通じて地域医療に貢献していきたいと思

- 認定資格者
- 薬剤部 鈴木高弘さん
(感染制御専門薬剤師・全国資格取得者二九名)
 - 臨床検査室 佐々木由香さん
(認定微生物検査技師)
 - 認定感染制御微生物検査技師・全国資格取得者三一五名)
 - 臨床検査室 山崎円さん
(認定輸血検査技師)
- さらに、看護師一名がICN取得に向けて研修中です。
(脳神経外科 篠永正道)

附属病院

附属病院

附属病院

附属病院



左から暁さん、理絵さん、翼さん、翔さん

学生投稿ページ

The students' contributions

02

今回のテーマ

兄弟姉妹揃って国福大生

- 長男 及川翼さん (2005年、理学療法学科卒業、現在、国際医療福祉リハビリテーションセンター、那須療養園勤務)
- 次男 及川翔さん (2008年、言語聴覚学科卒業、現在、慈誠会徳丸リハビリテーション病院勤務、4月から慈誠会成増病院勤務予定)
- 三男 及川暁さん (2010年4月、理学療法学科入学)

身近に「師匠、がいる」 感覚ででしょうか

まず、次男の翔さん、この大学に入学したのは、やはりお兄さんの影響。
「確かに大きく影響しています。私たちが3人と桜美林高校で中予備を目指し、いつもケガと隣り合わせでした。リハビリのフィールドは、自分にも身近なことが多かったように思います。さらに私が高校三年の時、兄が大ケガをした際、理学療法学科の先生のケアを目の当たりにし、また、言語聴覚学科の先生のカリスマ性に魅かれたことが大きかったです。」
三男の暁さんはいかがですか？
「影響はあったと思います。でもそれだけでなく、将来の職種を考えて出てきた答えが理学療法士だと思いました。」
翔さん、兄弟がいついかに学んだこのメリットは？
「まず何とんでも心強いですね。勉強に関しては、弟は兄と同じ学科なので、身近に「師匠」がいる感覚でしょうか。私は言語聴覚士として、理学療法士の兄と専門的な話をすることが多く、さらに「兄嫁も本学の作業療法学科卒業の現役の作業療法士なのです。それ、人間関係の輪はとも大切な、兄弟がともに学んだこの本当のメリットは、卒業後に生きてくるのかも知れません。」
最後に、翼さん、弟2人が自分と同じ道を選んだことをどう感じていますか？
「これまた兄弟ゲンカのネタがひびく増えると思うくらいに限りです。野球部も自分は全国大会へストローク、翔はベスト16、翼はベスト8でして、時にはぜひの全国制覇をめざしてほしい。それから、金持ちでもない家なのに、兄弟二人をこの大学に入れてもらい、やはり両親、家族、感謝ですね。」

高橋さん姉弟

本人が自ら決めた道を行くため、心配はしていません

●弟 高橋裕司さん (放射線、情報科学科四年)

高校時代、放射線技師を目指すことを決めた際、「向いている職業かと思つた」と応援してくれたことは今でも大きな支えとなっています。姉が大学在学中は、大学生活や勉強のことでアドバイスをいただきました。今は、社会人の立場から仕事の大変さや患者さんの気持ちを考えることの大切さを教えていただいています。そのような姉の姿を見て、残りの大学生活は、勉強だけでなく、社会人になるという心構えも作っていきたくと考えています。

●姉 高橋舞子さん (2009年、言語聴覚学科卒業、現在、あしかが産科病院勤務)

将来への希望を持ち、本人が自ら決めた道を行くため、心配はしていませんが、同じ道を進む弟には、大学では勉強に励み、卒業後は患者さんの気持ちを大切に出来る医療人になって欲しいと思っています。



後ろが真理さん、前が枝里さん

中村さん姉妹

同じ道を選んだというところを、とても嬉しく思いました

●妹 中村枝里さん (薬学科三年)

高校で理系クラスだったのでその科目を活かせる職業にしていきたいと考えていました。薬剤師は知識だけでなく患者さんのため、また自分自身のスキルを磨けることも良い職業だと思います。姉が大学に入り一番印象を受けたのが先生方がとても熱心であり毎日楽しそうに大学に通っていたことです。また、他の薬学部比べて学費が安いことも魅力的で、第一志望がこの大学を受験しました。

●姉 中村真理さん (2009年、薬学科卒業、現在、本学大学院在学)

妹が大学受験の時期になって初めて、薬学部に入りたいと思ったことを知った時はとても驚きました。妹は物を作るのが好きなので、そのような道に進むと思っていましたから。私は薬剤師という職業にとても魅力を感じていたので、同じ道を選んだというところを、とても嬉しく思いました。私自身もそうですが、妹にも薬剤師になって良かったと思える仕事をしていてもらいたいです。

臨床医学研究センター(九州地区)

高木病院

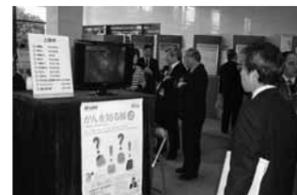
「がんを知る展」開催

国際医療福祉大学が監修した「がんを知る展」が三月一八日から三日間、佐賀県佐賀市の県庁県民ホールで開かれ、延べ約三千人ががんの最新情報を学びました。
佐賀県は福岡県とともに肝臓がんの死亡率が高いことで有名。佐賀県は九年連続全国ワースト1の不名誉な記録を続けています。「がんを知る展」は県民に対する「がん教育」の一環として佐賀県がアフラックとともに開いたものです。

会場では、モニターを見ながらはさみを使って手術するトレーニング機器や大腸がんの進行状況が分かる三〇倍視野のほか、国際医療福祉大学病院およびグループの三田病院、山王病院、化研病院の専門医が作った部位別がんの手術動画などに人気が集まっています。
開会式では、古川康知事が「がんは助からない病気ではない。早期発見、治療ができる病気であり、知識を身につけてください」と挨拶。また高邦会が



「がんを知る展」開会式



部位別がんの手術動画が人気

ように」とユーモアを交えたあいさつで拍手を浴びていました。
席上、がん検診を呼びかけるメッセージソングも披露され、「年に一度の誕生日、忘れないでがん検診」と軽やかなメロデーが耳に残りました。

六月に第四回大川市「未病と健康のつどい」

高木病院は三年前にがんセンターを立ち上げ、がんの予防と治療に力をいれていますが、六月六日(日)大川市文化センター大ホール(千人収容)で第四回大川市「未病と健康のつどい」を開きます。テーマは「がんは予防できる」ウィルス・細菌とがん、三人の講師が登場します。

●村上和成・大分大学医学部消化器内科診療教授「ピロリ菌と胃がん」

●山本匡介・国際医療福祉大学大学院教授(高木病院院長)

「C型肝炎ウィルスと肝臓がん」

●岩坂剛・佐賀大学医学部産婦人科教授「パピローマウイルスと子宮頸がん」

以上の講演の合間には、高木病院の女性医師によるフルートとピアノ演奏を交え、来場者の心と体を和らげます。

(広報室 鶴田憲司)

臨床医学研究センター(九州地区)

福岡山王病院

福岡山王病院のハートリズムセンターは、九州唯一の不整脈に対するカテーテルアブレーション(心筋焼灼術)に特化した専門機関ですが、その優れた治療実績が注目を浴びています。

同センターは、熊谷浩一郎センター長を筆頭に遠山映子医師らによるチームで構成、不整脈のカテーテルアブレーション治療の症例数は平成二年五月の開院以来、二九三日目の今年二月一七日に二〇〇例に到達しました。熊谷医師の通算症例数は一九九二年の第一例目から二四〇〇例をこえています。



ハートリズムセンターでのテレビクルーの取材風景

こうした実績に注目した福岡の民放テレビ局RKB毎日放送から取材申し入れがあり、三月中旬、初めてハートリズムセンターの施術室にテレビカメラが入りました。取材は熊谷チームによるカテーテルアブレーションの施術風景の撮影、熊谷センター長による不整脈や心房細動のメカニズムと治療についての解説、実際に不整脈治療を受けた患者様へのインタビューなど詳細におよびました。

福岡山王病院は今年五月で開院二年目となりますが、呼吸器内科が新たに加わるなど診療科目が一段と充実していますので、質の高い各部門の医療サービスについて今後も積極的にアピールしていきたいと考えています。

(広報室 林田好弘)

医療福祉チャンネル774では、スカパー!の774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学アワー

大学・大学院などの情報が満載

入学式や卒業式・運動会・大学祭などの行事、臨床実習や海外研修・国際活動、そしてクラブやサークルの紹介、先生方へのインタビューなど、大学・大学院・IHWグループのさまざまな情報をお届けします。現在放送中の番組では、大田原、小田原、大川、福岡天神の各キャンパスから、入学式を中心にお送りしています。

●この番組は放送終了後も、インターネットでご覧いただけます。
http://www.iuhw.ac.jp/movie.html



平成22年度入学式



世界遺産と国際文化政策

グローバルな視点から考察

グローバル化が文化政策に及ぼすインパクトを与えたかを、世界遺産制度を軸にして考えます。素材として、ユネスコが1972年に採択した世界遺産条約の内容、及びその運用状況を主として取り上げますが、併せて、無形遺産条約、文化多様性条約などの一連の



国際文化政策に関する条約も取り上げます。

佐藤禎一氏（本学大学院教授）
元文部事務次官。日本学術振興会理事長、
ユネスコ日本政府代表部大使を歴任。

●医療福祉チャンネル774を見るには

- スカパー!の774チャンネルでご視聴いただけます。
- 視聴料・・・月額2,100円（他、スカパー!加入料2,940円（初回のみ）
スカパー!月額基本料410円がかかります）
法人契約・・・5,250円
 - IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774 (株)医療福祉総合研究所 お客さま係
Eメール info@iryofukushi.com HP www.iryofukushi.com/
〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山1丁目タワー 4階

マロニエ・アワー

卒業生向けの新番組がスタート!

国際医療福祉大学の卒業生に送る番組『マロニエ・アワー』が、いよいよこの6月から始まります。医療福祉の世界で活躍するOB & OGを通じて、同窓生の皆さまに交流の場を提供します。番組では、マロニエ・アワーに登場していただける卒業生を募集しています!自薦他薦は問いません。大学院修了生でもOKです。



言語聴覚士として活躍する本学のOG

創作劇 「空白のカルテ」

ハンセン病強制隔離に抗した医師・小笠原登物語

地位や名誉、富の見返りを求めず、ハンセン病患者の強



※この物語に登場する大谷藤郎氏は本学の名誉顧問。1995~2001年に初代学長、2001~2008年に総長を務められました。

制隔離を進める政府に真っ向から立ち向かい、難病患者に尽くした僧侶にして医師である小笠原登。そして、その遺志を受け継ぎ「らい予防法」の廃止に全力を尽くした弟子・大谷藤郎の物語です。迫力ある演技をご覧ください。

◆774視聴者特典 無料配信中!

医療福祉専門チャンネル動画配信サイト
医療福祉eチャンネル
www.ch774.com/



広報誌 IUHW 81号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会

栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕

神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔福岡天神キャンパス〕

福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 ☎092-739-4321

〔大川キャンパス〕

福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕広報室

東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン：iDept. 写真：米山真人・写真部ほか 編集：東京事務所広報室

©国際医療福祉大学 2010 Printed in Japan 禁無断転載・複写



医療福祉の多様なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

お知らせ

IUHW Hot News

医療福祉学科 社会福祉士国家試験特別対策講義・壮行会

1月9日(土)・10日(日)、医療福祉学科では社会福祉士の国家試験を控えた4年生を対象に、国家試験の合格率向上と全員合格を目指し、特別対策講義及び壮行会が実施された。

講義内容は模擬試験の結果等を踏まえ、弱点を強化することを目的とし、集中して取り組む4年生の姿が見受けられた。また、同時に行われた壮行会炊き出しは「すいーっと受かれー、先輩!」を合言葉に、3年生有志がすいとんやカレーなどゲンを担いだメニューで両日の昼食を振る舞い、先輩達にエールを送った。こうした壮行会は本学科では初めての取り組みであったが、教員・学生が一丸となって4年生をサポートし、国家試験に向けて弾みをつける良い機会となった。



(医療福祉学科 助手 蛭田真弓)